

## 差別や偏見のない未来

中 一

私には「吃音」という障害があります。吃音は、二〜四歳の子供二十人に一人、大人になっても百人に一人の割合で見られ、決して珍しい障害ではありません。この吃音という症状は、言葉が円滑に話せない障害で、話を始めるときの最初の一言が詰まったり、同じ音を繰り返したりする言語障害の一つなのだそうです。私は七歳のときに気が付きました。

最初のうちは、気のせいかなという感じでしたが、毎日のように症状が出ていたので、さすがにおかしいと思いました。日頃から出ていましたが、特にみんなの前に出ると大変目立っていたので、周りの子から、

「変なの、バカじゃないの。」

「しっかり喋れよ。」

とバカにされることもありました。

心ない言葉を言ってくるのは一部の子でしたが、私は深く傷つきました。自分の中で不安に思っ

いたことを嫌な言葉で責められ、心がえぐられる思いでした。家に帰り、母の前で大泣きしながら悔しい気持ちをぶつけたことを今でも覚えています。母は全部受け止めてくれた後、私にある話をしてくれました。

実は、母はもっと前から私の吃音に気付いていたようです。自分では七歳から思っていました。幼稚園の年中頃から少しずつ始めていたと話してくれました。今だけなのか、この先ずっと続くのか分からないけれど、吃音のことについていろいろ調べていたとのことでした。そして、幼稚園の先生と連携して見守ってくれていたこと、小学校の先生にも報告してあることを、このとき初めて知りました。私に言わなかったのは、いつか自分で気付く日が来るから、それまでのびのびとさせてあげよう、そのときが来たら、全てを受け止めた上で、希望に合うようにしてあげようと考

えてくれていたようです。

辛い出来事の後、自分の目できちんとみてもらんと母から言われ、私はインターネットで吃音について調べてみました。珍しくない障害なのに、世の中ではまだ理解されづらい面があるため、笑



ターネット上での発言、匿名での中傷など、簡単に人を傷つけることができてしまいます。私は決してそうはしたくありません。できるなら傷つけられた側の人を助けられるような人間でありたいです。私にはいつも支えてくれた家族や先生、仲間がいるので、その人たちを見習って、悩んでいる人の力になりたいと思います。吃音だけに限らず、あらゆる差別や偏見もない、周りの人を思いやれるような、心ある未来を創りたいです。